

編集 後記

今回お届けする第66巻6号では、原著3編、公衆衛生活動報告1編を掲載しています。

「全国の介護保険レセプトを用いた在宅介護のフォーマルケア時間推計」では、介護レセプトを利用して、介護利用時間を推計する試みがなされています。医療レセプトを用いた研究は、ヘルスサービスリサーチに限らず、臨床研究の一手法として既に定着している感がありますが、介護レセプトの活用はまだそれほど多くありません。そのような中で、著者らの着眼や分析手法は、今後の国の介護保険事業に関する施策の企画や事後評価に資するものと期待されます。

「保険者別特定健診受診の有無と健康増進ライフスタイル、ヘルスリテラシー、ソーシャル・キャピタルとの関連」では、健診受診行動と関連する要因を対象者の属性別に分析しています。健診受診に関して、保険者・事業者側と住民（受診者）との関係を前提にして、受診勧奨や啓蒙が行われていますが、配偶者や近隣住民などとのネットワークを活用した受診勧奨の必要性を示唆する報告となっています。

「地域在住高齢者における身体・文化・地域活動の重複実施とフレイルとの関係」においてはフレイル予防の観点から、日常生活の様々な活動との関連が分析されています。介護予防については、言うまでもなく効果的な予防方法の探索が続いていますが、一つの反省として、これまでの介入ポイントでは遅すぎるのではとの指摘もなされています。一方で、住民自身が介護予防の必要性を感じるのは、実際に生活に不便を感じ始めた時とする報告もあります。そのような中で、フレイルという概念は、早期からの介入の必要性を強調するものであり、今後ますます重要な課題になっていくことでしょう。

「在宅医療推進のための多職種連携研修プログラム参加者におけるソーシャル・キャピタル醸成効果：都市部での検証」では、在宅医療推進における多職種連携を、医療・介護の提供者側におけるソーシャル・キャピタルの観点から検討した着眼点が興味深いです。医療・介護制度を検討する際には、あたかもシステムティックに規定されたものを想像してしまいがちですが、ここでは、医療・介護の提供に関わる人員も、社会を構成する人であるという当然の事実を踏まえているように感じます。

本号も、掲載された研究・報告を見るだけで、我が国の公衆衛生が直面する課題やトレンドが伝わってくる内容であるように感じます。
(藤野善久)

次号予告 (第66巻・第7号)

原著

- 地域在宅高齢者における転倒恐怖感と日常生活活動との関連……………富田義人, 他
沿岸部に在住する中学生の津波のリスクに対する認識と避難意思との関連……………磯野晃照, 他
保育士による発達上「気になる子」の保護者への支援の実態と関連要因の探索：発達上の課題の伝達に着目して……………佐藤日菜, 他
レセプト情報・特定健診等情報データベースを活用した都道府県の平均寿命に関連する要因の解析：地域相関研究……………井上英耶, 他